

# 経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和元年9月30日(月)午後2時58分～午後4時04分(9階904会議室)

## ○出席委員(8名)

委員長	二階堂武文
副委員長	佐々木 優
委員	高木 直人
委員	川又 康彦
委員	石山 波恵
委員	阿部 亨
委員	小松 良行
委員	山岸 清

## ○欠席委員(なし)

## ○市長等部局出席者(なし)

## ○議 題

- (1) 所管事務調査について
- (2) その他

---

午後2時58分 開 議

(二階堂武文委員長) ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりとなります。

所管事務調査についてを議題といたします。

前回は、9月13日の委員会審査終了後に少しお残りいただきまして、短い時間ではございましたが、皆様より所管事務調査に対するそれぞれのお考え等を自由討議によりお話し合いいただきました。また、それらの議論も踏まえ、改めて9月18日を期限に、調査テーマ集約表を皆様にご提出いただいたところです。

本日は、お手元にそのお預かりしたテーマ集約表をまとめて一覧表にした資料をご用意しておりますので、まずはそちらの資料をごらんください。特に委員名までは載せておりませんが、多かつたジ

ジャンルごとにまとめて、順不同で記載しております。表のナンバー1から5までは、細かく見ますと一つ一つ若干ニュアンスは異なるかもしれませんが、古関裕而氏関連のまちづくりについて、ナンバー6、7が駅前再開発、コンベンション施設関係について、ナンバー8、9が有害鳥獣対策についてとなっております。

なお、表の一番右側には、想定される担当部局について、正副委員長手元で調べて記載しております。ごらんいただきますと、古関裕而氏関連や有害鳥獣対策は当委員会で所管している部局でございますが、駅前再開発やコンベンション関係となると、どうしても政策調整部や都市政策部など、総務常任委員会や建設水道常任委員会の領域にも入ってしまうのではないかと予想されるようです。

本日は、これらの資料をもとに、前回よりも時間をかけて調査テーマについて協議できればと思います。

早速ではございますが、ここからは前回と同様の方式で自由に意見を出し合い、意見交換をし、議論を深めながら、テーマの決定まで進めてまいりたいと思います。

まず、皆様のお手元のほうに、過日提出していただきましたコピーをお渡ししております。議論の入り口といたしまして、それぞれ皆様のほうからご提出していただきました案について、阿部委員のほうからちょっとご説明、順繰りにご説明いただいた後に自由討議の中に入っていければというふうに思います。

(阿部 亨委員) 私は、この前、ここでの議論のときは、コンベンション関係ですか、コンベンション機能施設整備、誘致とかも含めてということですが、先ほど委員長からもお話ありましたが、所管の部等がまたがるということもあるなどもお話はいただきました。それで、前回皆様の意見等々も伺いまして、ざっくり私としてはここに書き出したのです、このテーマの中に。先ほど来出ております古関裕而氏を軸にした観光振興策、有害鳥獣、コンベンション機能と、ずらっと書き出してはみました。そこで、私としては、まずその中で一番推しといいますか、そういう部分では、やはり人物とか物、また事、物事、事柄等に特化した観光振興策の展開ということで、古関裕而氏、人というもの、これに特化した観光振興策の展開などを調査してはいかがかなという部分でまず載せました。それで、今回、来年からのドラマなども行われる。また、名所等々にもかかわってくるもの、そのあたりも参考人招致なども行いまして、その振興策に関して調査をしたらいかがかなということで、この項目でいきますと5番になるのです。2ページの5番ということなのですが、このあたりを調査したらいかがかなというふうに挙げてみました。

(川又康彦委員) 私としては、コンベンションについては、委員長からのお話あったとおり、ちょっと所管をまたぎ過ぎるのかなということと、あとエールについて、古関裕而氏を生かしたまちづくり、これも非常に重要だとは思ってはいるのですが、以前NHKで義経というドラマ、これは大河ですけども、こちらを15年ちょっと前ぐらいですか、ありまして、そのときも実は福島市も大分挙げて放映時期やったのですが、なかなかそれがうまく、その後なかなかつながっていくことにならなかった

ということもあって、個人的には、古関裕而を生かしたまちづくりをやっていく方向性もあるのではないかと思うのですが、所管事務調査で福島市のほうにまちづくりとしての提言というものを持っていくところまでやるべきなのかなという思いが非常に強くて、それよりは私としては8番と9番で挙げさせていただいておりますが、現在福島市の農政部として非常に課題の一つである有害鳥獣、特にイノシシ被害対策について、全国にさまざまな事例、特にICT関係を使った有効な施策をとっている県なんかもあるようでしたので、そういったところをぜひ調査として実際に視察をして、福島市への提言につなげていければなという思いで書かせていただきました。

(山岸 清委員) 私は、特段意見ということにはしなかったのですが、やはり出されたいろんなテーマもそれぞれ、なるほどなと思いました。それで、私が今見せていただいて思ったのは、やっぱりコンベンション、駅前再開発、これは何のためにやるかといえば、福島の経済の発展というのもあると思うので、都市政策部だといろんな県とか国の補助とか、あと手法とか、政策調整部にもかかわるのだけれども、でき上がった施設でどういうふうに市街地が活性化しているかというのを商工観光部の所管で見てくるのもありかなと、こう思いましたから、これを最初から取り上げないでなくて、そこらも入れて検討していただければと思います。意見としてはそんなところですよ。

(高木直人委員) 私は、前回この場でご提案させていただいたとおりで、この資料で申しますと7番が私の一応ご提案なのですけれども、先ほど委員長からもお話ありましたとおり、所管の部局ではないというところもありまして、ちょっと難しいのかなとも思ったのですけれども、ただほかの方々の古関裕而氏のドラマの放映、この機会にということではいろいろ数多くご提案がございますけれども、その中にも例えば交流人口についてとか、あとは駅ビル建設中という部分とか、私が最も気になるところは、やはり福島市が今開発をこれから進めようとしている中で、その開発中に交流人口が減ってしまうのではないかと、あとはいわゆるご商売がなかなか立ち行かなくなってしまうのではないかと、そういったところが一番気にかかる場所ですので、必ずしも7番の私のあれでなくても、皆様方のご提案の中のいわゆる古関裕而さんのドラマの放映を生かしてという部分で、その関連として、いわゆる駅前のにぎわい創出であったりとか、あと経済の活性化とか、そういったところに絡めていただければ、私はもうそちらのほうでも十分自分の要望としてはかなえられるのかなというふうに考えております。

(石山波恵委員) やはり私も、この前の土曜日で今のNHKの朝ドラが一回終わり、また月曜日から朝ドラが始まった市民の人の声を聞くと、次は福島だよねという、やはり来年の4月から始まるエールに関しての期待をたくさん聞いて、皆様この今の時期だからこそ古関裕而氏に触れてというのは絶対外せない課題かなというのがあります。あと、山岸委員がおっしゃったように、駅前のところと絡めながら、古関氏とのあれで商工観光部との視点から見たまちを視察するというので、ほかの部とかの絡みもあると思うのですが、視点を商工観光部のほうということのをさっきおっしゃっていただいたように、それで古関裕而氏と、あとは駅前開発ということがやはり福島の市民の人が今一番興味

があることなので、そこに取り組んでいって、どこをこうするというのはあれなのですけれども、私が出したのは4番のところだったのですけれども、何かうまく、この前、市長がおっしゃったように、駅前からシンフォニー通りではないけれども、何かいろんな案もあるのだとはおっしゃったのですけれども、古関裕而記念館あったり、あと駅前のところあったり、点と点でなっているところを今度それをつないで線にして、また春だったら花見山との連動とか、何かうまくきっかけづくりがなれるようなことを取り組んでいるところをいろんなところを勉強して、訪れてみたいなという、漠然として、どこどこに絶対ということはないのですけれども、テーマとしては古関裕而と駅前部分のところをやってみみたいというふうに思います。

(小松良行委員) 私は3番です。過日も申し上げましたけれども、令和2年4月からの朝の連続テレビドラマ、エールの放映が決定したことから、古関裕而記念館の当初予算等もこのたび決定されたことや、また先ほど石山委員のほうからもありましたとおり、市長の説明の中にもあったとおり、そうした今後古関裕而氏を題材にした駅前通りの交流人口の増加や、こうした題材にした、エールが終わった後も、観光客のおもてなしやにぎわいに通ずる施策の展開が図ればよいと考え、古関裕而を生かしたまちづくりというテーマで調査を進めたらいかがかと。東北では、例えばせんだってあったと思いますけれども、定禅寺通りのジャズフェスがあたりということなのですが、これも長く定着を見ているところで、地域にとっては一大イベントとなっておりますが、そうしたお祭りの音楽祭ということではなく、プロや、あるいはアマチュアでもいいのですが、さまざま音楽、芸術を交流とするような駅前通りと、その一つにこういった古関裕而氏の生誕の地であるというふうなことが今後語り継がれていけるような取り組みはいかがかと考えたところです。先進地的には東京渋谷や、あるいは青梅等でこうした青空音楽まちづくりといったものをつくっている団体もあたりとか、あるいは尾道市、さらには久留米市といった音楽祭事業に取り組んでいるまちがあります。その中の仕掛け人として、ヤマハにおとまちという企画があって、いわゆる経済の発展のみならず、人と人との交流や触れ合い、こういったものを芸術を通してまちづくりに生かしていこうといった取り組みを進めていく考え方を提唱しているところの方もございまして、こういった方々や、あるいは今回のNHKドラマの制作部、東北におられる方かもしれませんけれども、NHKの放送関係者や、あるいは古関裕而記念館館長、また古関裕而氏の知人などからさまざまこうした音楽に対するまちづくりや音楽に対する考え方などを参考人招致等をしつつ、期間中もさることながら、放映後も古関裕而の生誕の地としての福島、そして音楽と交流、触れ合いでにぎわいの創出を図れる、またこうしたオリンピックも来年度は来ますけれども、音楽や文化でのおもてなしという点からも、音楽、そして関連するまちづくりということをこの機会の調査項目として掲げるのが一番タイムリーといえればタイムリーで、いいのかなと考えたところでありました。

(佐々木優委員) 私は、2番のところなのですけれども、古関裕而氏をきっかけに町なかに行きたくなる仕組みづくりをしたいというふうに思っていて、本当にある意味きっかけというところで古関

裕而さんのところは考えていいかなと思っていて、例えば古関裕而さんの何かをつくるとか、そういうわけではなくて、やっぱりエールの放送があって、福島に行ってみたいなという人もきっとたくさんいらっしゃるのであろうと思いますし、その方にまた来たいなと思ってもらうにはやっぱり町なかで元気でなければいけないというふうに思うのです。それで、今ある町なかで頑張っている皆さんをどうやって生かしていくかということがやっぱりこれから本当に重要になるかなと思いますので、例えば今頑張っている、参考人招致のところにはヤブウチさんとか、ピックアップさんとか、イゲタさんというふうにしたのですけれども、商店街の皆さんややっぱり頑張って、町なかをどうやってつくっていくかと独自に勉強会なんかもされていたりして、この皆さんと力を合わせて、何か町なかに市民も、それから観光客の皆さんも来てもらって、何回でも行きたくなるようなまちづくりができないかという仕組みづくり、漠然としてしまっているのですけれども、そういうのができないかなというふうに思っていて、例えば調査の手法として、視察先に和歌山県田辺市の関係人口講座と、たなコトアカデミーというふうに入れたのですけれども、これは地域のいろんな人材を使って関係人口をふやしていくというような取り組みを、雑誌のソトコトという、そういう雑誌と一緒にコラボしながら関係人口をどうやってふやしていくかということをして田辺市では力を入れているということで、やっぱりさっき阿部委員もおっしゃいましたけれども、人とか物とか事というのを、今あるものをどうやって生かしていくことかというのが大事だと思うので、輝かせるためにはやっぱり地域にいらっしゃる、頑張っている方と、例えば外部から学生さんを集めたりとか、来てもらって、興味がある方になるとは思いますけれども、そういう講座なんかを開いて、福島市をどうやって輝かせるかというようなことも考えたりとかという、そういう仕組みづくりできたらいいかなんていうふうに思って、市民もまちに行きたくなる、関係人口もふえるというような仕組みをみんなで作っていったらなというふうに思って、こういう提案をしました。

(二階堂武文委員) それでは私も、この間のエールの放送決定を契機といたしまして、古関裕而を生かしたまちづくりを推進することになっているわけなのですが、2013年の八重の桜の若松市とか、会派の視察で行ってきました境港市のゲゲゲの女房、水木しげるの像なんかありましたが、そちらに比べまして福島市の場合は、幸いにして古関裕而記念館はあるものの、古関裕而に関連する観光インフラの整備がこれからという感じが否めないというのがまずあるかと思えます。市としては、古関メロディーの流れるまちづくりということで、古関裕而メロディーストリートをつくってオルゴールを設置するとか、車どめ等に古関裕而作品を表示するとかということはあるのですが、それにしても予算規模的にも時間的にもない中の、どうしても急ごしらえ的なところはあろうかと思えます。こういった中で、エールをきっかけに福島に足を運んでいただく観光客の皆さんであったり、また市民の方も地元で改めて目を向けていただく一つのきっかけになろうかと思うのですが、やはりそういった皆さんにリピーターになっていただく、市外の方であれば、もう一度、番組が終わった後も福島に足を運んでいただくようなきっかけづくりというのは、エール放送期間中の半年間にやっぱり仕掛けなく

てはならない大事なポイントなのかなというのは皆さんと問題意識は一緒です。それにしてもインフラの整備がやはりすごく急ごしらえで、限られていると。その中で、ではどうすればいいのかと思ったときに、この間福島市が取り組んできて、なかなか途中でストップしてしまった、先ほど来小松委員のほうからご説明がありましたが、人と人の触れ合いをまちづくりに生かしていくような提案というものを、ヤマハのおとまちですか、仕掛けられている。また、今佐々木委員のほうから、雑誌とのコラボを通じながら、人、物、事、阿部委員もおっしゃいましたが、どう生かしていくか、それによって福島市を輝かせていける仕組みをどうつくっていくかというようなお話をされていました。この件については、実はこの間福島市の観光を考えたときに、さまざまな角度から取り組まれてきたいろんな観光ソフトがあります。それは、その一つといえば、例えば福島検定、あれ商工会議所さんでやったのですかね。あれ3年で、補助金が終わると同時に終わってしまいましたかね。福島の通をつくる、福島通を育成するという事業がありました。全国的に検定ブームがはやったとき、福島商工会議所さんも音頭をとって、市も補助金つけて、やったときがありました。

もっと大きいのは、今ちょっと資料を、コピーとってまいりましたが、ちょっと配っていただきますが、海外でも国内でも、実は観光というのは人と人の、地元の人と遠方から来た人との接点がい出づくりにつながっていくということで、神社仏閣も大事なのですが、思い出づくりに1つポイントになっていくのは、先ほど阿部さん、佐々木さんからも出ていましたが、地元の人との接点というのが思い出づくり、リピーターづくりの一つの大事なポイントになっていくということで、実は全国的にまち歩き観光というのが注目されまして、実は長崎の長崎さるくさんがスタートで、前の福島コンベンション協会の専務理事されていたのですかね、水口さんが、青森で何かまち歩き観光の大会があったときに、その長崎さるくをやっていらっしゃる女性の方の講演を聞いて、福島市に必要なのはこれだということで、早速その方を福島市に2カ月に1回、1年間ぐらいですか、呼んで、勉強会をして、福島にまち歩き観光を根づかせようということで、福島市も七、八千万円ぐらい予算をつぎ込んで、こういった福島市内をまち歩きのコースを、今お配りしていますけれども、全部で四、五十ぐらいですかね、作りまして、ここに、その通りに面したところの、多少名所旧跡的なものも当然なのですが、そこで食堂を営んでいる方のおばちゃんの顔であったり、おいしいメニューであったり、サービス提供品とかも紹介させていただきながら、通りを歩く楽しさを皆さんに知っていただこうと。観光の魅力の原点には地元の人ありきと。これが、私は余り海外に行ったときないですけども、ヨーロッパとか何かも含めて、今やはりまち歩き観光というのが主流なのだということで、実はこのパンフレットを市も大分予算を割いて補助をしまして、作りました。ただ、まち歩きのガイドさんの養成とか何かもしてきたのですが、やはりここに来て動きがちょっと、当然人事もかわったりなんかしまして、せっかくここまでつくった観光ソフトが何かストップしている感じがあって、すごくもったいないとつくづく思っていました。

それで、今回古関裕而メロディーストリートとか何かをつくるときに、古関裕而絡みで何かやろう

と思ったときに、私は駅前通り、ここにあるような形で、古関裕而メロディーストリート沿いにある  
いろんな商店さんであったり、土産物屋さんであったり、食堂であったり、そういった皆さんにも協  
力していただきながら、そのストリートを歩く楽しさをもう一度感じてほしい。古関裕而メロディー  
ストリート周辺と、あとは音楽堂周辺と、あと飯坂と、古関裕而まち歩きスペシャルコースみたいな  
のでも3つぐらいつくって、それで何かそういったまち歩きと古関裕而という切り口で何かできれば  
いいなと。それは、あくまで今回はきっかけで、できればそれをきっかけにもう一度まち歩き観光と  
いうものをきちっと見据えた形で福島の観光の中にもう一度うまく位置づけし直すと、それはすごく  
また今まで蓄えてきたソフトが生かされるのではないかなとか、光り輝いてくるのではないかな  
というのがすごくありまして、今回の古関裕而メロディーストリートを市でつくってやっていくとい  
うのであれば、それに絡めながら人、物、事を、まちの魅力を通りに絡めてストーリーづけをしてい  
く中で何かやっていくような、そういったきっかけづくりとか、何らかの、もう一度見直して、  
提言ができないものかというのがありました。

済みません。何か尻切れ、ちょっと途中ですが。私ばかり話していると終わらなくなりますので。  
済みません、最初に言っておけばよかったですね。本日は1時間ぐらいの予定で考えていたのですが、  
今30分来ましたので、これから出てくるものについてはちょっと黒板に書きとめながら、自由討議に  
入りたいと思います。

#### 【この間自由討議】

(二階堂武文委員長) 決定事項を確認ということで、入り口は古関裕而氏のエールでの朝の連続テレ  
ビ小説スタートということに絡んでいますので、入り口は古関裕而ということで、あとは市内外の交  
流人口の拡大という部分もやっぱりきちっと見据えた形での、提言の発表の時期的なものも考えなが  
ら、今後中身を詰めていくというような方向で、何とか次回まとめていければと思いますので、いろ  
いろとありがとうございました。

それでは、ちょうど1時間となりました。どうもありがとうございました。

それでは、次回は10月11日金曜日というふうになります。

以上になります。ほか何かございますか。

#### 【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) なければ、以上で本日の経済民生常任委員会を終了いたします。どうもお疲れ  
さまでした。

午後4時04分 散 会

経済民生常任委員長 二階堂 武文